

(仮称) 再生プラン策定に係る意見交換会 意見等一覧

日 時	令和 8 年 7 月 12 日(日) 10:00~11:30	場 所	長山コミュニティセンター
参加者数	21 人		

【用例: ●…意見・要望、■…質問、➡…市の回答】

- 市内では、夜間にバイクが集まり、騒音や危険な走行、信号無視等が見られる。子育て・教育環境を充実させても、安心して暮らせる環境が整っていなければ、子育て世代に「住みたい」「住み続けたい」と思ってもらえない。市が中心となって地域や警察と連携し、こうした問題の改善に取り組んでほしい。
- ➡地域の実情について意見をいただいたので、関係課や警察等と連携し、改善に向けて取り組んでいきたい。

- 人口減少は全国的な課題である一方、流山市や明石市など人口対策で注目されている自治体もある。財政的な制約があることは理解しているが、龍ヶ崎市では他自治体の取組を参考にした人口減少対策を検討・実施しているのか。
- ➡市長を本部長とする人口問題対策推進本部を設置し、人口減少への対応を検討している。先進自治体の事例も参考にしながら、子育て環境の充実に加え、新婚世帯への補助や賃貸住宅の更新に対する補助など、市外から人を呼び込む取組と、現在の市民に住み続けてもらうための取組を進めている。財政的な制約もある中で、人口減少をできるだけ緩やかにするための施策に取り組んでいる。

- 人口減少対策として様々な補助制度を実施していることを市民自身も知らなかった。人口対策で成果を上げている自治体は情報発信も上手だと思うが、市内外への PR をどのように行っているのか。
- ➡ホームページ等で周知しているほか、市内ではショッピングセンターやドラッグストア等にパンフレットを設置している。市外向けには、常磐線沿線や千葉県北西部周辺の幼稚園・保育園等に配布するフリーペーパーを活用し、各種補助制度だけでなく、森林公園をはじめとする地域資源など、子育て世代が龍ヶ崎市を訪れるきっかけとなる情報と併せて PR している。

- 財政状況が厳しいことは理解しているが、他自治体の保育ステーションのように、話題性があり市外にもアピールできる施策など、さらに工夫した人口増加策を検討してほしい。
- ➡周知方法については、今後も様々な方法を検討していきたい。

- 松葉・長山地区を持続可能な地域としていくためには、若い世代が継続的に転入し、世代が循環していくことが必要だと思う。例えば 19 歳から 39 歳程度の若い世代を年間何世帯程度呼び込む必要があるのかなど、目標とする世代別人口構成や具体的な数値目標は設定しているのか。

- ➡資料では将来人口の推計を示しているが、「何歳の人を何人呼び込む」といった地区単位の詳細な目標までは設定していない。市全体では人口ビジョンに目標人口を定めており、将来的な人口減少をどれだけ緩やかにできるかという考え方で人口対策を進めている。
- 若い世代を呼び込みたいのであれば、「どの世代をどの程度増やすのか」という具体的な目標値を設定し、その目標から逆算して必要な施策を考えるべきではないか。目標値を明確にすることで、具体的なアクションプランにもつながると思う。
- ➡今後の検討課題として受け止めたい。
- 小学校跡地だけで若い世代向けの住宅用地等を確保することには限界があるのではないかと。周辺には住宅地以外の未利用地もあるため、必要に応じて土地利用や用途の見直しなども検討してほしい。
- 再生プランは10年間の計画となっているが、10年後に具体的なまちづくりを開始するのか、それとも計画期間中に具体的な取組を進めていくのか。
- ➡10年後に取組を開始するということではなく、令和9年度からの10年間で、再生プランに位置付けた具体的な取組を順次進めていく。
- 市外から人を呼び込むのであれば、「今後この地域をこのようなまちにしていこう」という具体的な将来像を先に打ち出して発信する必要があると思う。そうした具体的なまちづくりの計画やタイムスケジュールは、いつ、どのような形で示されるのか。
- ➡概要版では将来ビジョンと3つの施策を示しており、これを地区のまちづくりの基本的な方針として具体的な取組を進めていく。今回配布した資料は概要版であり、60ページを超える本編には、より詳しい内容を掲載している。
- 北竜台学園の開校後も、数年先には児童・生徒数がさらに減少することが懸念される。子どもを増やしていくため、小学校跡地への児童館や保育施設など、子育て世帯が暮らしやすくなる施設の導入を検討してほしい。
- ➡再生プランでは「多世代共生のまちづくり」「子育て・教育環境の充実」「既存ストックの有効活用」を3本柱としている。持続可能なまちづくりには、若い世代の定住を促し、年齢構成のバランスを改善することが重要と考えている。小学校跡地は、子育て住宅などまとまった用地を必要とする事業の候補にもなり得ることから、跡地活用検討委員会による地域の意向を踏まえ、再生プランに反映していく。
- 地域の高齢化に伴い、コミュニティ協議会では80歳を超える方が防犯パトロール等を担うなど、活動の維持が難しくなっている。北竜台学園の開校により学校も統合されることから、コミュニティ協議会についても、現在の小学校区単位から中学校区単位に見直すことを検討してほしい。

- ➡現在は13のコミュニティを単位として協議会を設置しており、現時点で小学校区から中学校区へ見直す具体的な検討は行っていない。一方、人口減少や高齢化が進む中では、住民自治やコミュニティ協議会のあり方を現状に即して見直す視点も重要と考えている。いただいた意見については、庁内及び所管課と共有する。
- 小学校跡地については、「地域の意向を踏まえる」というだけでなく、市として子育て支援施設など「この地域にはこうした機能が必要ではないか」という一定の方向性を示した上で、地域住民の意見を聞いてほしい。北竜台地区には、さんさん館のような子育て関連施設がないため、跡地活用と併せて検討してほしい。
- ➡長山地区で実施した小学校跡地に関するアンケートでは、商業施設の充実や子育て支援・教育環境の充実を求める意見が多かった。こうした意見も踏まえ、再生プランでは「子育て支援環境の充実」を重点項目に位置付け、屋内遊び場の確保や、多様な世代が利用できる居場所の整備など、親子が安心して集える拠点の形成を目指している。
- 多世代交流の拠点としてコミュニティセンターがあるが、長山コミュニティセンターは1階の部屋が少なく、2階へは階段しかない。また、駐車場も少ないため、高齢者にとって利用しにくい。小学校跡地の活用に当たっては、こうした地域の交流機能についても考えてほしい。
- ➡本市は小学校区単位で13のコミュニティセンターを設置しており、近隣自治体と比較して配置はきめ細かい一方、一つ一つの施設は比較的小規模という特徴がある。北竜台地区では、広い施設が必要な場合には馴染みコミュニティセンター、身近な地域活動には長山コミュニティセンターを利用するなど、施設の特性に応じた使い分けを想定している。
- 小学校跡地のアンケートでは防災の視点が十分に示されていなかった。現在、小学校には市や自治会の防災倉庫、マンホールトイレ等が整備されているが、閉校後の避難所機能や防災設備はどのようなになるのか。
- ➡現時点の案では、閉校後も当面の間、校舎、体育館、マンホールトイレ、防災コンテナ、ライフライン等を使用可能な状態とし、避難所機能を維持する考えである。一方、北竜台学園についても指定避難所とし、体育館に空調設備があることなどから、災害時には北竜台学園を優先的に開設し、長山小学校等は補完的に運用することを想定している。将来的には、跡地活用の内容や北竜台学園との役割分担、財政面や他地域とのバランスを踏まえながら、防災機能のあり方を検討していく。
- これまで市の上位計画等で長年課題として位置付けられてきた内容にも、なかなか進んでいないものがあるため、今回の再生プランが実際に進むのか不安を感じる。
- ニュータウンから転出した子ども世代が、親の高齢化等を機に龍ヶ崎市へ戻りたいと思っても、夜間のバスが早い時間に終了するなど公共交通が不便で、仕事を続けながら戻ることが難しいという話を聞く。若い世代の転入だけでなく、地域から転出した子ども世代が戻ってこられるような公共交通や住宅施策を検討してほしい。

- 高齢者の移動についても、現在のコミュニティバスだけでは十分ではない。一定年齢以上の方が定額で公共交通を利用できる仕組みなども含め、高齢者が移動しやすい公共交通のあり方を検討してほしい。
- 鉄道やバスなど公共交通の維持には財政負担も必要となるが、市の財政状況を踏まえ、どのような交通サービスにどの程度費用をかけるのかを含め、市全体として公共交通のあり方や財源について十分に検討してほしい。
- 再生プランは様々な取組が盛り込まれている一方、内容が総花的に見える。財政が厳しい中ですべてに少額ずつ投資するのではなく、「選択と集中」により龍ヶ崎市ならではの特徴となる施策に重点的に取り組むべきではないか。
 - ➡今後、具体的な施策や取組を検討する中で、選択と集中という視点も踏まえながら、地域の特徴となる取組を生み出していきたい。
- 北竜台地区は、もともと東京方面へ通勤するベッドタウンとして発展したが、現在はつくば市も大きく発展している。つくば方面への公共交通を充実させ、「つくばのベッドタウン」としての特徴を打ち出すなど、周辺都市の発展を生かした新しい視点も検討してはどうか。
- 現在の用途地域等によって建築物の規模が制限され、良好な住環境が保たれているが、今後もこの土地利用のルールは維持されるのか。例えば、現在の空き地に高層マンション等が建設され、住環境が大きく変化することはないのか。
 - ➡用途地域は、まちの将来像を見据えた安定的な土地利用の枠組みであり、頻繁に変更するものではない。変更する場合も市が一方向的に決定するものではなく、地域住民の意見や、市としてその地域をどのようにしていくかという考え方を踏まえ、都市計画法に基づく必要な手続きを経て検討する。地域住民の意見を大切にしながら考えていく。
- 児童公園では草が伸びた状態が長期間続くなど、地域活動の担い手不足が既に公園の維持管理に表れている。これまで地域のボランティアが担ってきた公園清掃、防犯・防災活動等について、高齢化が進む中で今後もボランティアだけに頼るのは難しい。必要な部分については、市が費用を負担して担い手を確保するなど、公共サービスとして対応してほしい。
- 長山小学校は比較的新しい建物であり、閉校後すぐに取り壊すのはもったいない。若い世代だけでなく、高齢者の健康づくりや生涯学習という視点も必要であり、他自治体のシニア大学のような取組など、小学校施設を高齢者にも活用する方法を検討してほしい。
- 龍ヶ崎市に住みたいと思ってもらうためには、「龍ヶ崎市にはこういうサービスがある」と分かる目玉施策も必要である。子育て・医療等を含め、他自治体との差別化につながる取組を検討してほしい。

- 今回の意見交換会だけで終わるのではなく、プランが最終的に決定するまでの途中段階でも、市民に検討状況を示し、「このような方向でどうか」と意見を聞く機会を設けてほしい。
- ➡ 今回の松葉地区・長山地区での意見交換会やアンケートでいただいた意見を整理し、市ホームページで公表するとともに、必要に応じて再生プランへ反映し、内容をブラッシュアップしていく。その内容を改めて示すことができる段階で、コミュニティセンター、または小学校等を会場として、再度意見交換の場を設けることも考えている。

- 意見交換会の結果や市議会での議論など、市政に関する情報を広報紙でもできるだけ分かりやすく伝えてほしい。
- ➡ 市議会については「市議会だより」を年4回発行している。広報紙については、限られた紙面の中で届けたい情報を絞って掲載する方針となっているため、すべての情報を掲載することは難しい。市ホームページを中心に、議会を含めた行政情報について、できるだけ分かりやすく、届きやすい情報発信に努めていく。

- 再生プランの資料には2020年の人口データなどが掲載されており、現在の状況と比較すると古く感じる。市民に示す資料として、可能な限り最新のデータを使用し、精度を高めてほしい。
- ➡ 今回の人口データは、長期的な推移を比較するため、1995年まで遡ることができる国勢調査の常住人口を使用している。地区別の詳細な国勢調査結果については、資料作成時点で2020年の数値が最新であったため、その数値を使用している。住民基本台帳による最新人口とは性質が異なるが、今後、新しい国勢調査データが公表され、反映できるものについては更新に努めていく。

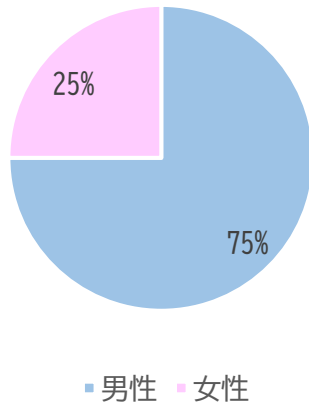
- 少子高齢化への対策について、市では様々な施策を行っていると思うが、それらが個々に示されているため、市民からは全体的な戦略が見えにくい。市全体として今後どのような方向を目指し、どのような施策を進めていくのかを、ホームページ等で体系的に分かりやすく示してほしい。

- 東部地区で運行しているAI オンデマンド交通の利用状況はどうなっているのか。また、高齢化が進む中、西部地区への拡大や、乗合タクシーの目的地を増やすことなどは検討できないか。
- ➡ AI オンデマンド交通は、令和7年度に約1万4,200人、1日当たり約40人が利用しており、令和8年度は現時点で若干増加傾向にある。西部地区はコミュニティバスや路線バスの利用が比較的多く、AI オンデマンド交通を導入すると既存の民間公共交通との競合が生じる懸念があるため、現時点では運行エリアの拡大には慎重な対応が必要と考えている。また、乗合タクシーについても、一般タクシーの営業を妨げないよう、事業者との合意のもとで目的地や運行時間に一定の制限を設けている。今後の公共交通については、西部地区だけでなく市全体のまちづくりに関わる重要な課題として、庁内で情報を共有しながら検討していく。

- 既存の交通事業者との役割分担が必要なことは理解するが、既に「買い物に行けない」という高齢者が地域にいる。今後、買い物に困る高齢者はさらに増えると考えられるため、民間事業者との競合だけでなく、実際に移動に困っている市民をどのように支えるかという視点から、より具体的な対策を検討してほしい。
- 他自治体では、乗合交通を自宅から目的地まで利用できる仕組みもある。龍ヶ崎市でも、高齢者が自宅から病院や買い物先などへ移動できる、より利用しやすい交通手段について検討してほしい。
- 高齢者にとっては、買い物先まで行けても、購入した米や牛乳など重い荷物を持ってバス停から自宅まで帰ることが難しい場合がある。高齢者の移動や買い物の問題を一体として捉えてほしい。
- 小学校跡地活用についても、子育て支援だけでなく、高齢者の買い物支援という視点を取り入れ、地域の農産物や日用品等を購入できる場所を設けるなど、地域の生活利便性を高める活用方法も検討してほしい。
- ➡今回の意見交換会では様々な立場から多様な意見をいただいております、これらを庁内で共有するとともに、小学校跡地活用検討委員会にも、長山地区・松葉地区でどのような意見が出されたのか分かる形で情報共有していく。

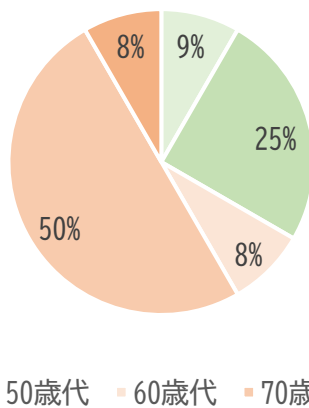
アンケート結果

1 あなたの性別を教えてください



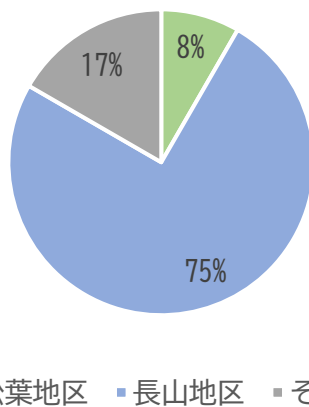
男性	9
女性	3

2 あなたの年代を教えてください



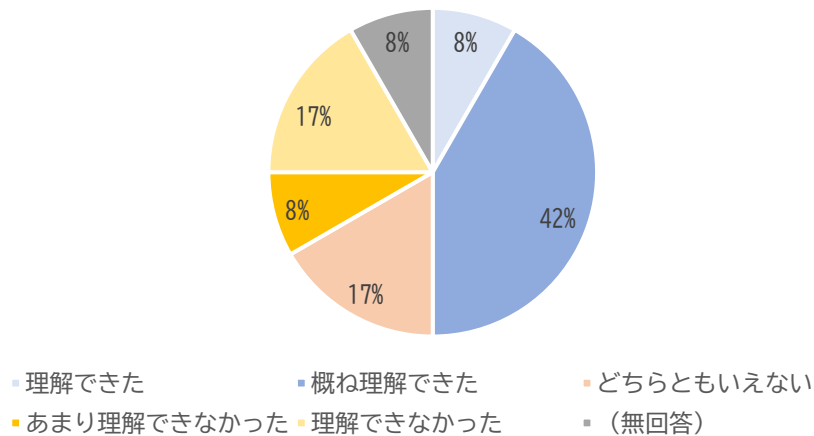
30 歳代	1
50 歳代	3
60 歳代	1
70 歳代	6
80 歳代	1

3 あなたのお住いの地区を教えてください



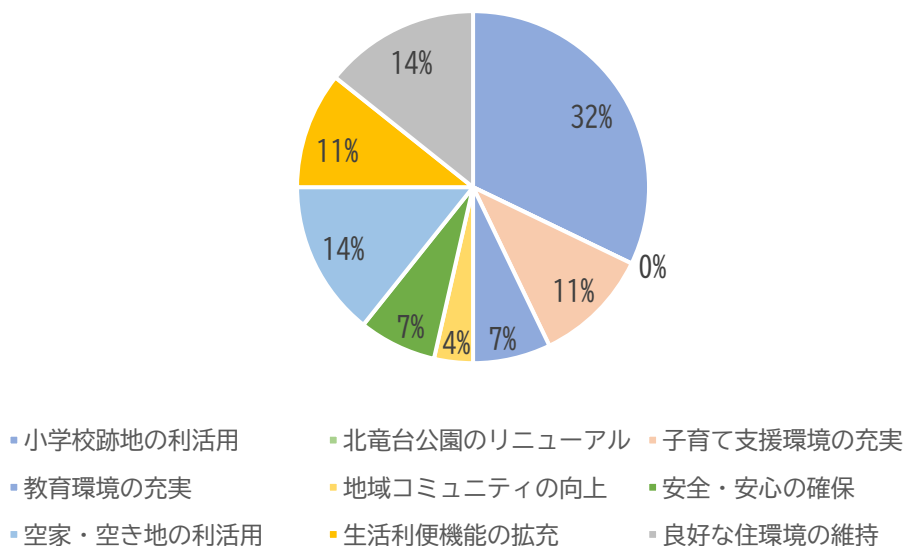
松葉地区	1
長山地区	9
その他	2

4 （仮称）再生プラン（素案）の内容について、あなたの理解度を教えてください



理解できた	1
概ね理解できた	5
どちらともいえない	2
あまり理解できなかった	1
理解できなかった	2
(無回答)	1

5 （仮称）再生プラン（素案）で、あなたが関心ある「推進プログラム」を教えてください（複数選択）



小学校跡地の利活用	9
北竜台公園のリニューアル	0
子育て支援環境の充実	3
教育環境の充実	2
地域コミュニティの向上	1
安全・安心の確保	2
空家・空き地の利活用	4
生活利便機能の拡充	3
良好な住環境の維持	4

6 ご意見・ご提案

- ・過去に実施したアンケートや意見交換の結果についても公表し、今回の意見交換会の参加者と情報共有してほしい。
- ・再生プランの策定・実施に当たっては、パブリック・コメントなどを通じて広く市民の意見を聴く機会を設け、意思決定の過程や判断理由について十分な説明責任を果たしてほしい。
- ・再生プランと市の最上位計画など、関連する計画との整合性を確保してほしい。
- ・人口減少・高齢化によって、将来的に世帯数が大幅に減少する地区や団地が生じることへの危機感を持ち、県など関係機関とも連携して対策を検討してほしい。
- ・北竜台防犯ステーションの活動実績や防犯上の効果を検証し、今後のあり方を検討してほしい。

- ・北竜台ニュータウン地区の防犯体制について、防犯ステーションだけでなく交番の設置・再編なども含め、警察と連携して検討してほしい。
- ・コミュニティ組織の再編については、中学校区単位への統合ありきではなく、各地区の特性や住民意向を尊重して検討してほしい。
- ・一方で、高齢化や担い手不足を踏まえ、松葉・長山地区のコミュニティ協議会を北竜台地区として一体化することも検討してほしい。
- ・自治会については、それぞれの地域特性を踏まえ、松葉・長山地区ごとの活動を維持することが望ましい。
- ・公共施設の再編に当たっては、単独施設として考えるのではなく、コミュニティ機能などとの複合化・一体的な活用も検討してほしい。
- ・オンデマンド交通について、地域間の移動や商業施設・医療施設へのアクセスに不便があるため、改善してほしい。
- ・路線バスについても、サプラ周辺などの運行ルートを含め、利便性向上に向けた見直しを交通事業者へ働きかけてほしい。
- ・松葉・長山地区だけでなく、馴馬台など周辺地区についても、将来的な地域の孤立を見据えた検討が必要である。
- ・北竜台学園の通学区域など、今後の教育環境に関する方向性を早期に明らかにし、コミュニティセンター等の再編・移転の検討と連携させてほしい。
- ・人口減少が進む中では、幅広い施策を実施するだけでなく、将来を担う子どもの教育や人材育成を重点的に進めることが重要である。
- ・高齢者施策と子育て施策を含め、将来の財政負担や持続可能性を十分に考慮した施策展開が必要である。
- ・人口増加・転入促進を重要な課題として捉え、人口増加に成果を上げている自治体も参考にしながら、財政負担を抑えた効果的な情報発信や施策を検討してほしい。
- ・小学校跡地については、人口増加や市民生活の向上につながることを前提として、官民連携による活用を積極的に検討してほしい。
- ・小学校跡地の本格活用までの間も、体育館や校庭を開放するなど、既存施設を健康増進等に有効活用してほしい。
- ・北竜台学園開校後の児童数減少も見据え、保育園や児童館など子育て環境を充実し、若い世代が住みやすいまちづくりを進めてほしい。
- ・空き家対策について、再生プランの中で具体的な取組内容を示してほしい。
- ・増加する空き家を市等が取得・改修し、若い世代に比較的安価に提供するなど、空き家活用と移住促進を組み合わせた施策を検討してほしい。
- ・若い世代の転入を促進することが、高齢化や子育て環境など地域課題の改善につながるとの視点を持ってほしい。
- ・都会的な利便性や魅力を高めるため、公共交通や文化施設等の充実を検討してほしい。
- ・太陽光発電施設の設置によって緑地や農地が減少しないよう、土地利用との調整や適切なルールづくりを検討してほしい。
- ・戸建住宅地でアパート等への土地利用転換が進むことについて、良好な住環境を維持する観点から

必要な対応を検討してほしい。

- ・北竜台再生プランについて、より具体的なランドデザインや将来像を早期に示してほしい。
- ・完成した計画だけを示すのではなく、検討途中の段階から情報を公開し、デジタル技術等も活用しながら市民と議論できる仕組みを設けてほしい。
- ・北竜台公園だけでなく蛇沼公園についても整備を進め、枯れ木の伐採、繁茂した樹木・草木の整理、蛇沼を見通せる環境づくりなど、安全性・景観を改善してほしい。
- ・JR 龍ヶ崎市駅ロータリーについて、朝夕の送迎車両による混雑や安全面への対応を含め、早期に整備してほしい。
- ・意見交換会で市職員から直接説明を受け、要望への回答も聞くことができたため、理解が深まった。
- ・意見交換会を今回限りとせず、年 2 回程度など継続的に開催し、今回参加できなかった市民にも参加機会を設けてほしい。
- ・1 回の意見交換だけで結論を出すのではなく、市民の理解を得ながら丁寧に再生プランを進めてほしい。
- ・市民が将来像を具体的にイメージできるよう、分かりやすく具体的な方針を示してほしい。
- ・再生プランの検討に当たっては、防災面についても十分に考慮してほしい。